

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	43	大学等名	東京農工大学
テーマ	テーマⅢ（高大接続）		

### 【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

### 【コメント】

<優れている点>

- ・全体構想に基づき、当該事業及び3つのポリシーの見直し、高校・大学合同でのFDの実施とその後の相互授業参観・情報交換への発展といった取組が着実に行われており、大学全体の改革が進められていることは評価できる。
- ・各取組は着実に進捗しており、達成度にも問題はない。初年次教育改革も教材制作とテスト開講が着実に実施され、平成31年度実施予定の全学共通教育科目改革にも期待ができ、評価できる。また、事業の中心となる「高大連携教室」は、参加人数は少人数ではあるが、夏7時間、冬15時間、春20時間とボリュームがあり、当初予定していたアドバンスト・プレースメントとして、高校生に単位認定可能な学習量となっていることは評価できる。
- ・AP事業を契機に、大学教育改革をこれまで以上に円滑に進められる体制に移行している。また、PDCAサイクルが機能する体制づくりにより、適切な意思決定が行われていることは評価できる。
- ・本事業をスタートアップ支援として位置付け、当初から取組のパッケージ化等が意図されてきた。本事業による成果を適切に把握し、補助期間終了後を見据えた取組が進められていることは評価できる。
- ・事業成果の普及については、マスコミ対応、調査訪問対応のみならず、教育系学会等での発表等の取組が積極的に行われていることは評価できる。
- ・「アドミッショングループ」「グローバル教養教育グループ」「海外リエゾングループ」の活動によって入学から卒業までの質保証を実現しようとしている本取組は、総合的に高く評価できる。
- ・テーマ別幹事校として、座談会、ポスター・セッション、紙メディアでの発信、ウェブサイトでの発信と多様な方法で成果の普及に取り組まれていることは高く評価できる。